

1 単元名 新美南吉作品の魅力伝え合おう

2 単元の目標

- ・ 叙述に着目して物語を読み、感じたことや考えたことを進んで話し合おうとしている。
【国語への関心・意欲・態度】
- ・ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述をもとにして想像して読むことができる。
【読むことウ】
- ・ 文章を読んで、考えたことを発表し合い、互いの考えの共通点と相違点を考えながら話し合うとともに、一人一人の感じ方の違いに気づくことができる。
【読むことオ】
- ・ 想像したことが文章に表れているかを見直し、よりよい表現に書き直すことができる。
【書くことオ】
- ・ 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことができる。
【伝国イ（ア）】

3 指導にあたって

(1) 教材観

- ・ 言語活動 新美南吉の作品の中から読みたいものを選び、「ごんぎつね」で学習した物語の読み方を生かして選んだ本を読み、登場人物の性格・気持ちの変化・心情曲線などを記したリーフレットをつくり、友達と互いに読み、話し合う。

新美南吉作品の魅力伝え合おう

手袋を買いに ー人間はいいものかしらー

しづやき

人間って本当にいいものなのかしら。わたしはまだ人間のことを信じ切れないわ。

かあさんぎつね
0 大間においまくられ
50 逃げたことを思い出す
100 人間の手で買う
ように教える

子どものぎつね
100 人間の手で買う
50 ように教えられる
0 ぼうし屋をさがす

人物の紹介
子どものぎつね
(中心人物)
世の中のことを何も知らないおさない子ども
母さんぎつね
(対人物)
子どもをきつねをとてこまかわいがっている。人間を

一文で表す
人間は「わいものだと」教えられた子どものぎつねが人間の店できつねの手をだしてしまふことによつて人間はちつともこわくないと気付くお話。

ぼくは「きつねの手を出したのに、人間はちゃんと手袋を売ってくれたよ。」
人間のお母さんも、ぼくのお母さんみたいにとつてもやさしい声をしていたよ。

「ごんぎつね」は、ひとりぼっちの小ぎつね『ごん』が、自分と同じひとりぼっちの兵十と心を通わせようと努力しながらも、通わせきれない切なさを描いた物語である。

指導事項「(1) ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと」を受け、六場面で構成されたこの物語の一場面から五場面までは『ごん』の視点から、場面の展開に沿って中心人物であるごんの性格や心情の変化を想像しながら読むことにふさわしい教材である。六場面では、視点が『ごん』から、それ

まで対人物であった『兵十』へと変わる。この転換によって『兵十』が『ごん』を殺したいほど憎んでいたということがわかることから、すれ違いが生み出す結末に、なぜそれに至ったのかについて、叙述を根拠に登場人物の心情を想像しながら読む力を育てるのに適した教材であるといえる。

(2) 児童観

本学級の児童は、本を読むことを好み、朝の読書活動では一人一人が自分の興味にあわせた本を集中して楽しみながら読んでいる。「白いぼうし」においても、中心人物の松井さんの人柄について叙述を根拠としながら考えたり、描写から場面の様子を想像したりして読む学習活動を行ってきた。また、自分の判断の根拠としたことを友達と話し合って比べる学習もしてきた。しかし、読みの力としては個人差があり、物語の表面をなぞるように物語の設定を読み取るまでにとどまり、登場人物の人柄については想像はついても根拠と理由を明らかにできない児童も数名いる。また、心に浮かんだ言葉を適切に表したり、文章に書いてあることを適切に読み取ったりが難しい語彙不足の実態も見られる。このことから、語彙を理解したり増やしたり、それを使って文章に表す学習活動を積極的に行う必要がある。また、各場面の叙述を関連付けながら登場人物の心情の変化を読み取ることがまだ不十分である。

(3) 指導観

「ごんぎつね」という教材を読みながら、単元を貫く言語活動では新美南吉の作品のリーフレットを作り、その魅力を友達と伝え合うという学習活動を設定した。

一次で単元全体の学習の見通しを持たせ、二次では物語のだいたいの内容を読み取らせたり、登場人物や設定を意識したりしながら読み、書かれていることを整理しながら読んでいく。「ごん」のひたむきな思いや行動に、児童は寄り添いながら読むと思われる。ごんの人柄や行動の理由について表現力が乏しい児童については、「なぜそんな行動になったの?」「そういう行動をするときはどんな時?」などと問い、自身の生活経験などと照らし合わせながら理解を深めさせたい。ちょっとしたいたずら心が思わぬ影響を及ぼしたことに端を発し、せめてもの償いを、という切ない思いや「兵十」への一方的な共感、償いであるはずの行為でありながら、認めてもらいたいという思いがあることなど、叙述をもとにしながら自分の経験と照らし合わせたりペアや小グループで伝え合う活動を取り入れたりしながら、想像を膨らませて読ませたい。また、本文に描かれる美しい情景描写は、味わい深い挿絵とともに物語を読み取らせる上で大変効果的に書かれている。五感で感じられる情景を表す語句に着目し、叙述をもとに想像豊かに読み味わわせていきたい。

三次の言語活動では、新美南吉の作品の中から読みたいものを選び、「ごんぎつね」で学習した物語の読み方を生かして選んだ本を読み、中心人物の性格・気持ちの変化・心情曲線などを記したリーフレットをつくり、友達と互いに読み、伝え合う学習を行う。自分が判断の根拠としたことを友達のそれと比べることを通して、同じ作品を読み進めても友達との感じ方が違うということに気づいたり、自分の感想・考えを見つめ直したりしながら作品に対する理解をさらに深められると考える。また、三次で各自リーフレットを書かせる前の練習として、二次の学習において「ごんぎつね」のリーフレットを内容ごとに書き進めさせ、三次での活動へとスムーズに入っていけるようにしていきたい。

(研究テーマとの関わり)

【仮説2】との関わり

本時では、仮説2に基づき、めざす児童の姿に近づけるように、授業前半部で^①大切を提示し、課題達成のための思考の助けになるような既習の学習用語等を示す。そこで共通理解を持った読みをさらに深めるために、「『引き合わないなあ。』と嘆いていたのにまた翌日もつぐないをしに兵十の元へ行くのはなぜ?」と切り返して発問をすることで違う視点から考えさせ、さらに狙いにせまっていきたい。

4 指導計画と評価規準（総時間 14 時間）

時	時	狙い	主な学習活動	評価規準【評価方法】	評価の観点					
					関	調	書	読	伝	
一	次	1	<p>学習の見通しをもち、学習計画をたてる。</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの経験から物語教材において、一人一人で感じ方や考え方の違いがあることを思い出す。 学習課題を設定し、並行読書の方法や「新美南吉作品の魅力が伝わるリーフレットを作ろう」という言語活動について確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 新美南吉作品を読み、作品の魅力が伝わるリーフレットを作ろうとしている。（発言・行動） 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。（行動） 	○					○イ(7)
		2	<p>「ごんぎつね」を読み、あらすじをとらえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 挿絵を順番に並び替え、あらすじや物語の設定、登場人物について確認する。 物語の内容を一文で書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 場面の移り変わりに注意しながら読んでいる。（ノート） 					○ウ	
二	次	3	<p>物語の全容をとらえ、疑問を出しあう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時において一文で書いたものについて話し合い、出し合った意見の中で捉え違いなどから出てきた疑問を出し合い、物語を読み深めていくための見通しを持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 一文を発表し合い、互いの考えの共通点と相違点を考えながら話し合うとともに、一人一人の感じ方の違いに気づいている。（発言・行動） 					○オ	
		4	<p>ごんの行動から、ごんの性格をとらえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一の場面を読み、ごんの境遇や行動から性格をとらえる。 逆からの読みを行い、結末から原因は何だったのかを考えることによって、ごんの性格をとらえる。 	<ul style="list-style-type: none"> 場面の移り変わりや情景に注意しながら、ごんの性格や気持ちの変化を叙述をもとに想像しながら読んでいる。（発言・ノート） 					○ウ	
		5	<p>行動や情景の変化から、ごんの気持ちの変化をとらえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「つぐない」の内容と原因を明らかにし、兵十の母が死んだのは自分のせいだとごんが思い込んだことによる「つぐない」だったことを押さえ、行動や気持ちの変化をとらえる。 	<ul style="list-style-type: none"> 場面の移り変わりに注意し、ごんが考えたことと事実を区別し、気持ちの変化を読んでいる。（発言・ノート） 					○ウ	
		6 (本時)	<p>行動や情景の変化から、つぐないを続ける理由についてごんの気持ちを想像して読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「つぐない」の原因を明らかにし、つぐないを続けるごんの行動や兵十に対する気持ちの強さや変化をとらえる。 	<ul style="list-style-type: none"> 場面の移り変わりに注意しながら、ごんの気持ちの変化、情景などについて、叙述をもとに想像して読んでいる。（発言・ノート） 					○ウ	
		7	<p>ごんが変わったとわかる一文を見つけ、どのように変わったのかをとらえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ごんが変わったことがわかる一文を叙述からさがし、根拠と理由を明らかにして表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> 場面の移り変わりに注意しながら、ごんの気持ちの変化、情景などについて、叙述をもとに想像して読んでいる。（発言・ノート） 					○ウ	

	8	視点の転換に気づき、ごんの変容について考える。	・六の場面を読み、ごんの視点から兵十の視点に変化したことに気づき、ごんが兵十に打たれることによって大きく変容したことについて考える。	・視点の転換に気づき、ごんの変化について、叙述をもとに想像して読んでいる。 (発言・ノート)					○ウ
	9	ごんと兵十の心の変容を心情曲線を書くことによって考える。	・一場面から六場面までのごんと兵十の二者の心の動きを心情曲線で表す。	・場面の移り変わりやごんと兵十の二者の心の変容を叙述から読み取り、心情曲線を書いている。 (発言・ノート)					○ウ
	10	物語の概要を一文で書き、まとめる。	・学習の読みをまとめるため、一文で書き、初めのものと比べたり友達の一文とを読み比べたりする。	・既習を活かし、ごんの変容を捉えて一文に書き、互いの考えの共通点や相違点について話し合い、感じ方の違いに気付いている。 (発言・ノート)					○オ
三 次	11	物語をしっかりと読み、リーフレットに書く内容項目を落とさずに書く。	・並行読書してきた本の中から一つのお話を選び、必要な項目について落とさずに書き、リーフレットをつくる。	・場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述をもとにして想像して読んでいる。 (行動観察・ノート)					○ウ
	12	物語をしっかりと読み、リーフレットに書く内容項目を落とさずに書く。	・並行読書してきた本の中から一つのお話を選び、必要な項目について落とさずに書き、リーフレットをつくる。	・場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述をもとにして想像して読んでいる。 (行動観察・ノート)					○ウ
	13	リーフレットの内容を推敲する。	・リーフレットを読み返し、新美南吉作品の魅力がしっかりと書かれたものになっているかを見直し、修正を加える。	・想像したことが文章に表れているかを見直し、よりよい表現に書き直している。 (リーフレット)					○オ
	14	友達と互いに読み合い、紹介しあう。	・同じ物語を読んだ人同士でお互いにリーフレットを読み合い、紹介しあう。	・リーフレットを読んで、考えたことを発表し合い、共通点と相違点を考えながら話し合うとともに、一人一人の感じ方の違いに気づいている。 (行動観察・ノート)					○オ